

国民への発信

- 持続的な下水道事業の実現に向けて、下水道の役割や必要性への理解、下水道業界の担い手確保等が必要。
- 下水道への関心醸成を図るとともに、下水道の現状や課題等を理解してもらえよう、**段階的な広報を産学官が連携しながら推進。**

9月10日「下水道の日」



下水処理施設の見学(福島県) 下水道に関する書道展(宮崎市)

「下水道の日」に合わせて、全国で普及啓発の行事等を300箇所以上で実施(平成30年度)

※「下水道の日」は、下水道の役割のひとつである「雨水の排除」を念頭に、暦上で台風の襲来が多い時期といわれる立春から数えて210日頃の9月10日に制定。

マンホールカード



マンホールカードの例

デザインマンホールをカード化

現在407地方公共団体で478種類、累計約290万枚を発行。
観光分野との連携も図られるなど、地域活性化にも貢献。

ミス日本「水の天使」



2018 ミス日本「水の天使」浦底里沙さんの活動

水の広報官として2012年より活動

国内外のイベントで水の大切さや魅力、我が国の水インフラ技術等を広く発信。

下水道業界の担い手確保



下水道分野の産学連携講義

大学生・高専生等を下水道業界へ

下水道の魅力や将来性を官民が連携して発信し、担い手確保に向けた活動を実施。

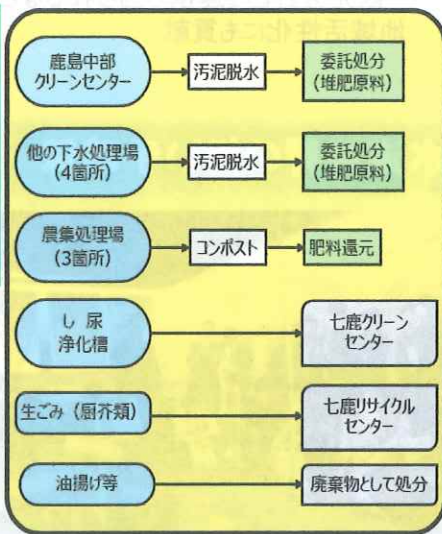


鹿島中部クリーンセンター

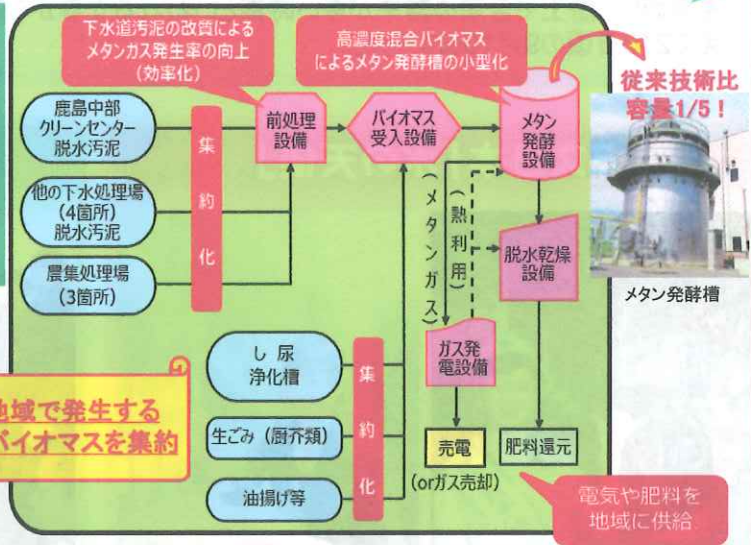
下水処理場を地域のエネルギー拠点へ！
～小規模下水処理場向け混合バイオマスメタン発酵システム～

● before >>> ● after

従来（個別処理）



現在（集約処理）



！循環型社会の形成に貢献！

- 地域バイオマスの集約処理と下水汚泥の改質技術の導入によりバイオガス発生量を増加させ、汚泥量が少ない小規模処理場でも効率的な資源活用が可能。
- バイオガスによる電力生産や汚泥肥料の農地還元により、新たな循環システムを形成。

MAP ▲

！下水道事業経費の縮減により、経営基盤を強化！

- 複数の事業の効率的連携により、長期的な地方公共団体の経営基盤を強化。
- 中能登町では、汚泥の減量化・肥料化により、処分費用を年間で約26百万円削減。バイオガス発電等による売却益で、年間で約1.6百万円の収入増。



当新田ポンプ場
平成28年3月
305m³/分 増強

北長瀬ポンプ場
平成24年7月
200m³/分 整備

浦安ポンプ場
平成27年3月
356m³/分 増強

平成30年7月豪雨において下水道施設が効果を発揮！

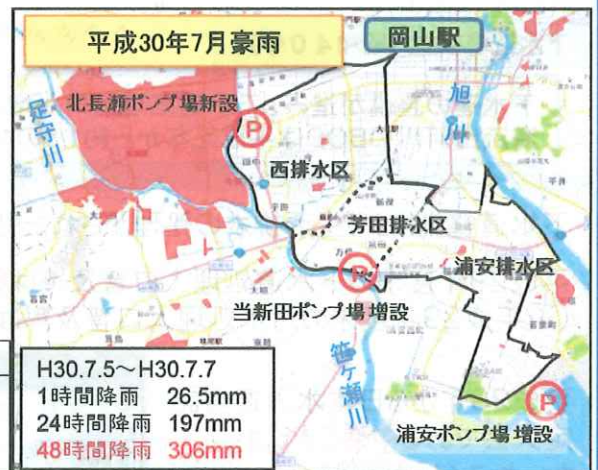
● before



● after



増設分だけで149万m³
の雨水を排水！
(東京ドーム約1杯分)



凡例

	浸水対策実施地区
	浸水区域

- 岡山市では平成23年12号台風において、市全域で床上浸水135戸を含む4,580戸の浸水被害が発生。
- 中でも市街化の進んでいた西排水区、芳田排水区、浦安排水区において被害が大きく、床上浸水20戸を含む1,270戸の浸水被害が発生した。
- これを受け、これら3排水区において重点的に下水道施設を整備。
- 平成30年7月豪雨においては、48時間雨量で306mmの降雨を観測史上最高を記録したにもかかわらず、下水道整備を進めた3排水区では浸水被害の報告は床下浸水32戸に激減。

下水道事業
による
効果事例

鳥取県米子市

放流先の中海でくつろぐコハクチョウ



◆ 水鳥の生息する中海は、平成17年にラムサール条約湿地として登録されています。

水鳥の楽園中海の水質を守っています！

● before

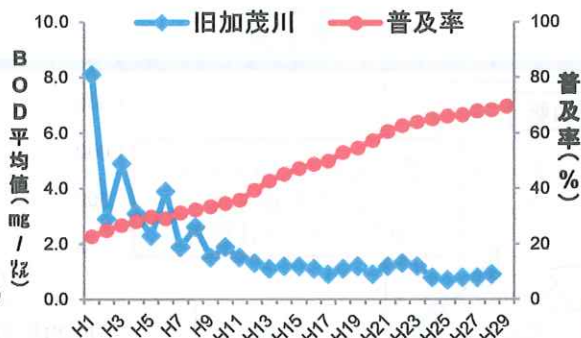


● after



(参考：内田克巳写真集 米子 内田克巳著 米子プリント社)

下水道着手前（昭和40年）



下水道着手後（平成29年）

下水道の整備が進み、下水道処理人口が増加したことにより生活排水による河川の汚染が改善され、中海流出河川の水質は平成元年から約1/8の1.0mg/lに低下し水質が改善

下水道整備により生活排水の処理がされた結果、現在では中海への流出河川の水質が大きく改善。

平成29年度末の下水道処理人口普及率は**69.6%**。
 (※平成29年度末の汚水処理人口普及率は**88.9%**)

平成26年から日本水泳連盟認定大会である中海OWS(オープンウォータースイム)が開催。



ラムサール条約湿地登録及び中海OWS開催を継続するには**下水道の普及により、中海の水質改善及び利用に貢献**することが重要。



MAP

下水道事業による効果事例